

1. 結婚にはさまざまなかたちがある。恋愛と見合い、夫婦の年齢差、共かせぎのせひ論など……それだけに結婚直前の女性は迷い悩むことが多い。そこでここにその代表的なテーマを、女子大生に質問し、それぞれの解答を整理分析したのが本研究である。

2. 兵庫県のS短大、大阪府のS女子大、H短大、愛知県のS短大の女子学生約1,000名を対象とし、質問紙法によって調査し、女子大生の結婚意識に内在する近代性と非近代性とを分析した。家庭環境、地域社会との関連性をも追求した。また、同年代の男子大学生の結婚意識と対比するために、大阪府のF大、愛知県のN大生約300名を対象として同じく質問紙法によって調査分析した。これらの調査によって女子大生の結婚意識の功利性と感傷性などが数量的に示される。この種の調査は、すでに社会学者をはじめ家庭の民主化を提唱する人たちによって、しばしば行なわれている。従来、これらの調査の結果とも対比して、その類似点と相異点とを検討した。

3. 家族関係の研究は、夫婦と親子関係の、Seinの問題に終わってはならない。Sollenを問題にしなければならない。従来、この種の調査にあって、その結果の数字的処理のみに終始し、問題の深層に触れることなく、また、問題解決への前進に欠くことを反省しなければならない。